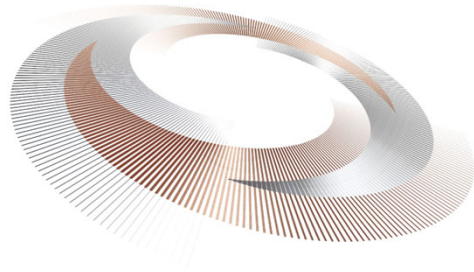


2025年3月期第3四半期決算補足説明資料

2025年2月13日



執行役常務の高柳でございます。
本日は、弊社決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
それでは、2025年3月期 第3四半期決算概要及び2025年3月期通期業績予想についてご説明いたします。
まずは、決算補足説明資料の4ページ、エグゼクティブサマリをご覧ください。



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。

そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。

その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。

そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

目次

1. エグゼクティブサマリ	P.4
2. 損益推移の状況（四半期）	P.5
3. 25年3月期3Q累計実績	P.6
4. 連結貸借対照表	P.8
5. 25年3月期通期業績予想	P.9
6. セグメント概況	P.10
7. セグメント別増減内訳（通期予想前年実績対比）	P.14
8. UBE三菱セメント社概況	P.15
9. 参考情報	P.16

エグゼクティブサマリ

景況感	<ul style="list-style-type: none"> 自動車市場の需要は、米国における金利引き下げや中国での新車販売施策の効果により、一部地域で回復の兆しが見られるものの、日本や東南アジアでは需要低迷が継続。 半導体市場は、生成AI関連など先端分野のみ引き続き好調。
3Q累計実績 (対前年同期比)	<p>3Q実績は、対前年同期比で増収・増益。</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上高は、銅価格の上昇や為替の円安などにより増収（10,815億円→14,836億円、対前年同期比+37%）。 営業利益は、2Qでの金属事業における実収効率の改善や為替の円安などにより増益（154億円→322億円、対前年同期比+110%）。 経常利益は、3Qのロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金が前年から減少したものの、営業利益の増益及び持分法投資利益の増加により増益（436億円→568億円、対前年同期比+30%）。 純利益は、1Qに計上したPT. Smelting（インドネシア）の持分法適用関連会社化に伴う持分変動利益などにより増益（246億円→491億円、対前年同期比+100%）。
通期予想 (対前回公表*)	<p>2025年3月期通期の連結業績予想を修正。</p> <p>売上高19,800億円(対前回予想比+300億円)、営業利益400億円(対前回予想比△10億円)、経常利益590億円(対前回予想比△40億円)、当期純利益370億円(対前回予想比△80億円)。</p> <p>売上高：銅価格の上昇、為替の円安などにより増収。 営業利益：自動車市場の回復遅れにより減益。 経常利益：ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金減により減益。 当期純利益：足元における需要低迷の継続等を踏まえ、減損損失など特別損失計上を織り込み減益。 配当予想は、前回公表値から変更はなく100円（中間50円、期末50円）。</p> <p>なお、前年度実績に対しては、増収増益となる。</p>

* 前回：2024年11月8日

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

4

まず、自動車、半導体市場の景況感です。

自動車市場の需要は、米国や中国など一部地域で回復の兆しが見られましたが、当社のメイン市場の日本や東南アジアでは需要低迷が継続しています。

半導体市場においても、生成AI関連などの先端分野のみが引き続き好調な状況です。

次に、第3四半期累計の実績です。

対前年同期比では増収・増益です。

売上高は、銅価格の上昇や、前年同期に比べ為替水準が円安であったことなどにより増収となりました。

営業利益は、第2四半期の金属事業における実収効率の改善などにより増益となりました。

経常利益は、第3四半期のロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金が前年から減少しましたが、営業利益や持分法投資利益の増加により増益となりました。

純利益は、第1四半期に計上しましたPT. Smeltingの持分法適用関連会社化に伴う、持分変動利益、有価証券の売却益などにより増益となりました。

通期予想は、前回11月8日公表の予想に対し、増収・減益となります。

売上高は、銅価格の上昇、為替の円安などにより増収ですが、

営業利益は、自動車市場の回復遅れにより減益、

経常利益は、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の減少などにより減益を見込んでいます。

当期純利益は、足元の需要低迷の継続等を踏まえまして、減損損失など特別損失を織り込んだことにより減益を見込んでいます。

配当予想は前回公表値と変更ありません。

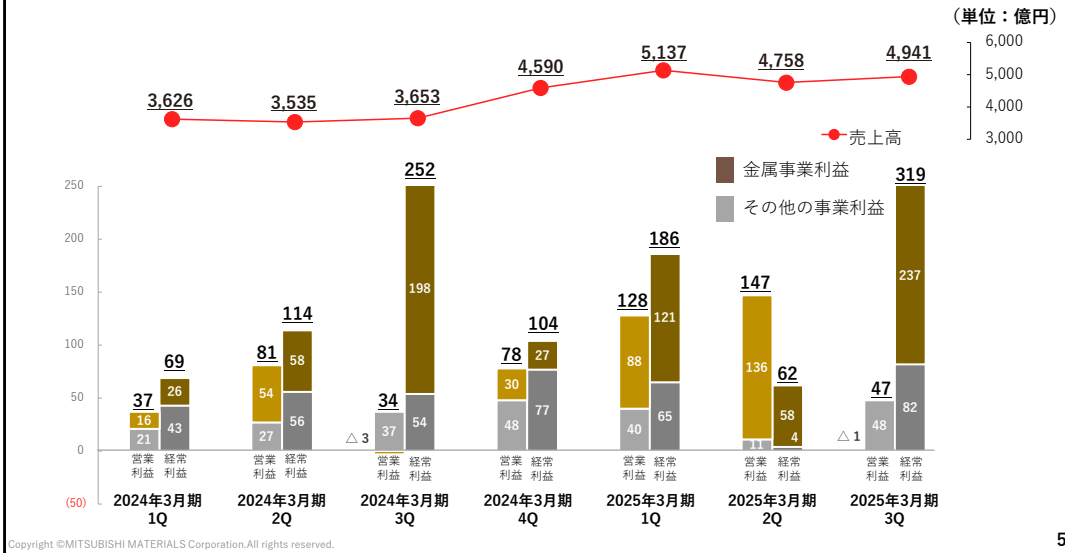
なお、前年24年度の実績に対しては、増収・増益となる見込みです。

今回見直したセグメント別の業績予想はご参考情報として資料の末尾に添付しています。

続いて、5ページ、四半期推移をご覧ください。

損益推移の状況（四半期）

- 売上高は、為替が円安に推移したことなどにより**4,941億円(対前四半期比+182億円)**。
- 営業利益は、実収効率の改善による利益がなかったことなどにより金属事業が減少し**47億円(対前四半期比△100億円)**。
(直島製錬所の実収効率の改善による利益計上は2Qと4Qのみ)
- 経常利益は、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金、金銭債権債務に係る為替差益などにより**319億円(対前四半期比+256億円)**。



こちらは四半期毎の損益の推移です。第3四半期の売上高は、為替が円安に推移していたことなどにより、前四半期比182億円増収となりました。

営業利益は、第3四半期は金属事業の直島製錬所の実収効率改善による利益計上が無く、前四半期比100億円減益となりました。

一方、経常利益は、ロスペランブレス銅鉱山などからの受取配当金、為替が円安に推移したことによる金銭債権債務に係る為替差益の計上などにより、前四半期比256億円増益となりました。

続いて6ページをご説明いたします。

25年3月期3Q累計実績（連結損益計算書）

（単位：億円）

項目	24年3月期 3Q累計実績(a)	25年3月期 3Q累計実績(b)	増減(b-a)
売上高	10,815	14,836	+4,021
営業利益	154	322	+168
受取配当金	235	177	△57
持分法損益	86	139	+52
経常利益	436	568	+131
特別損益	△13	73	+86
親会社株主に帰属する 四半期純利益	246	491	+245
ドル為替 (円/\$)	143	153	+9
ユーロ為替 (円/€)	155	165	+10
銅価格 (¢/lb)	378	425	+47
金価格 (\$/oz)	1,961	2,492	+531
パラジウム価格 (\$/oz)	1,262	984	△277

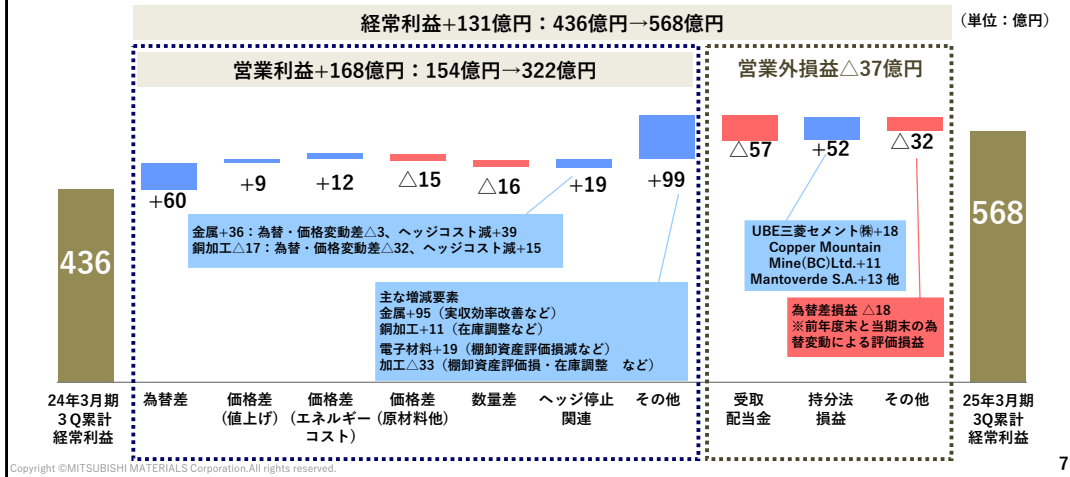
Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

6

こちらは、第3四半期累計 9か月間の実績を示しています。
営業利益、経常利益の詳細は7ページの滝グラフをご覧ください。

25年3月期3Q累計実績（経常損益要因内訳）

- 営業利益は、円安による為替差、ヘッジ停止によるヘッジコスト減、実収効率の改善などにより322億円（対前年同期比+168億円）となった。
- 経常利益は、営業外損益でロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の減少や為替差損があったが、営業利益の増加に加え持分法投資利益の増加により568億円（対前年同期比+131億円）となった。
- ヘッジ停止関連は、3Qに金属事業の為替・価格変動差でマイナスが生じ、3Q累計では営業利益+19億円（為替・価格変動差△35億円、ヘッジコスト減少+54億円）、営業外損益△14億円となった。3Q累計でのヘッジ停止による損益額は+5億円となった。



こちらは、第3四半期までの累計実績の経常利益を昨年度実績と比較した営業利益、経常利益の増減分析となります。

滝グラフ左側が営業利益の増減分析となります。

為替は、第2四半期で円高に転じましたが、その後は円安に転じ、第3四半期までの累計平均では前年同期比で円安となり、増益となりました。

価格面では、値上げ、電力などエネルギー価格の下落による増益効果、原材料価格上昇による減益効果があります。

数量差は主に銅加工事業、加工事業などで販売が減少したことで減益となりました。

ヘッジ停止関連は、為替・価格変動差、ヘッジ停止によるヘッジコスト減の合計がプラス19と増益です。

その他には、金属事業での実収効率の改善や記載の項目が含まれています。

滝グラフ右側の営業外損益では、持分法投資利益が増加となったものの、第3四半期に受け取ったロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の減少、その他では金銭債権債務に係る為替差損益がマイナスとなりました。

これらの結果、経常利益は対前年同期比で131億円の増益となりました。

ヘッジ停止関連による影響につきましては、

営業利益は、為替・価格変動、ヘッジコスト減少により第3四半期累計でプラス19億円です。

営業外損益は、ヘッジ停止に関連した売掛金回収時に生じた為替差により第3四半期累計でマイナス14億円計上しました。こちらについては、営業外損益のその他の為替差損益△18億円に含まれています。

第3四半期累計でのヘッジ停止による損益は経常利益で プラス5億円となりました。

続いて8ページをご覧ください。

連結貸借対照表

(単位：億円)

- 総資産が増加した理由としては、棚卸資産及び貸付け金地金が増加となっている。
- 今年度の第3四半期よりグローバルキャッシュマネジメントシステム（ノーショナルプーリング）の運用を開始したため、対象の流動資産と借入金・社債・CPがそれぞれの項目に計上されている。

項目	24年3月末 (a)	24年12月末 (b)	増減 (b-a)	項目	24年3月末 (a)	24年12月末 (b)	増減 (b-a)
流動資産	12,830	15,141	+2,311	借入金・社債・CP	6,031	7,095	+1,064
固定資産他	8,845	9,237	+391	その他負債	8,788	10,185	+1,397
資産 計	21,676	24,379	+2,703	負債 計	14,820	17,281	+2,461
自己資本比率	30 %	28 %	△2 %	自己資本	6,536	6,902	+366
ネットDEレシオ	0.7 倍	0.9 倍	+0.2 倍	非支配株主持分	319	195	△124
				純資産 計	6,856	7,097	+241
				負債純資産 計	21,676	24,379	+2,703

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

8

こちらは2024年12月末時点の連結バランスシートを示しています。

総資産は棚卸資産及び貸付け金地金が増加し2,703億円増加しました。また、今年度の第3四半期よりグローバルキャッシュマネジメントシステム（ノーショナルプーリング）の運用を開始したため、対象の流動資産と借入金・社債・CPがそれぞれの項目に計上されています。

12月末時点の自己資本比率は28%、ネットDEレシオはネット有利子負債の増加などにより0.9倍となっています。

以上が連結決算での第3四半期累計実績の概要となります。

続いて9ページをご覧ください。

25年3月期 通期業績予想

- 売上高は、銅価格の上昇、為替の円安などにより上方修正。(対前回予想比+300億円)
- 営業利益・経常利益は、自動車市場の需要回復の遅れによる当社の伸銅品、超硬製品の低調な販売などを織り込んだ。(対前回予想比 営業利益△10億円、経常利益△40億円)
- 当期純利益は、足元における需要低迷の継続等を踏まえ、減損損失など特別損失を織り込んだ。(対前回予想比△80億円)

損益計算書 (単位：億円)	24年 3月期 実績(a)	25年3月期			増減 (c-a)	為替・ 金属価格	24年 3月期 実績(a)	25年3月期			増減 (c-a)	
		前回 (11/8) 予想(b)	今回 予想(c)	増減 (c-b)				前回 (11/8) 予想(b)	今回 予想(c)	増減 (c-b)		
売上高	15,406	19,500	19,800	+300	+4,394	ドル 為替	円/\$	145	151	153	+2	+9
YoY				+1.5%	+28.5%	ユーロ 為替	円/€	157	163	164	+1	+7
営業利益	232	410	400	△10	+168	銅価格	¢/lb	379	415	419	+4	+40
YoY				▲2.4%	+71.8%	金価格	\$/oz	1,989	2,353	2,544	+191	+555
経常利益	541	630	590	△40	+49	パラジウム 価格	\$/oz	1,191	1,036	988	△47	△202
YoY				▲6.3%	+9.1%	感応度*1						
親会社株主に帰属 する当期純利益	297	450	370	△80	+72	4Q 影響額						
YoY				▲17.8%	+24.2%	為替	営業利益1円/\$円安	億円				+2.5
						為替	営業利益1円/€円安	億円				+0.3
						銅価格	営業利益10¢/lb	億円	a			+1.0
							営業外損益10¢/lb	億円	b			+0.1
							経常利益10¢/lb	億円	a+b			+1.0
一株 配当	中間 円	47	50	50	-	+3						
	期末 円	47	50	50	-	+3						

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

*1:感応度に在庫評価影響は含んでおりません。

9

通期の連結業績予想となります。

前回11月8日の業績予想に対して増収・減益の修正となっています。

売上高は銅価格の上昇、円安により増収の予想となります。

営業利益・経常利益は自動車市場の需要回復遅れによる低調な販売を織り込み減益となりました。

当期純利益は、足元における需要低迷の継続等を踏まえ、減損損失など特別損失を織り込み減益となりました。

セグメント別でも数値の見直しを行っておりますので、次ページ以降でご説明いたします。

尚、配当予想は前回の公表値から変更しておりません。

また、今回の見直しの前提としております為替、金属価格はスライド右上に記載の通りです。

ドル為替は第4四半期を155円と想定し、年間では153円としています。

為替、銅価格の変動による業績影響はスライド右下に感応度でお示ししています。

なお、為替の感応度にはヘッジ停止による為替・価格変動差影響は含んでいません。

続いて10ページをご覧ください。

セグメント概況（金属事業）

- 3Q累計実績は、ロスベランプレス銅鉱山からの受取配当金の減少があったが、為替が円安基調で推移し、為替差やヘッジ停止による為替・価格変動差での増益があったことに加え、実取効率の改善、持分法投資損益の改善などにより経常利益は418億円（対前年同期比+135億円）となった。
- 通期予想は、金価格などの上昇により増収。一方、経常利益は為替の円安の影響があったものの、電気銅の販売減、ロスベランプレス銅鉱山からの受取配当金の減少などにより454億円（対前回予想比△16億円）を見込む。（通期でのヘッジ停止による影響は+5億円）。

項目	24年3月期 3Q累計実績 (a)	25年3月期 3Q累計実績 (b)	増減 (b-a)	前回(11/8) 通期予想(c)	今回 通期予想(d)	増減 (d-c)	
売上高	億円	7,163	10,950	+3,786	14,294	14,639	+345
営業利益	億円	67	223	+155	287	273	△13
経常利益	億円	283	418	+135	471	454	△16

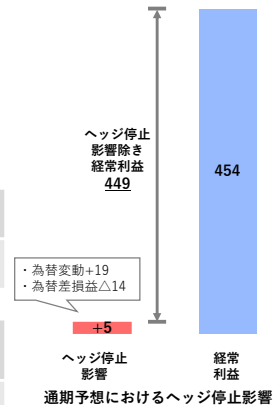
経常利益増減要因内訳	3Q累計実績 増減	通期予想 増減
為替差	+30	+8
価格差*1	△2	△5
数量差	△2	△14
受取配当金	△53	△15
持分法損益	+31	-
その他*2	+131	+10
経常利益増減	+135	△16

*1価格差の主な内訳

3Q累計実績増減	バラジウム 他
通期予想増減	バラジウム 他

*2その他の主な内訳

3Q累計実績増減	実取効率+71、ヘッジコスト+39 棚卸資産評価損益+10 他
通期予想増減	為替差損益+19



こちらからは、セグメント別の概況についてご説明します。

まず金属事業となります。

第3四半期累計実績は、前年同期比で増収・増益となりました。

営業利益・経常利益はロスベランプレス銅鉱山からの受取配当金が減少しましたが、為替が円安基調で推移したこと、銅マウンテンやマントベルデ銅鉱山など持分法投資損益の改善、実取効率の改善、ヘッジコストの減少などにより増益です。

通期の業績予想については、前回予想に対して増収・減益です。

営業利益・経常利益は電気銅の販売減、銅鉱山からの配当金の減少などを織り込み減益の見込みです。

通期でのヘッジ停止による影響はプラス5億円を想定しています。このほかに、昨年度発生していたヘッジコスト約50億円分が今期は増益効果となっています。

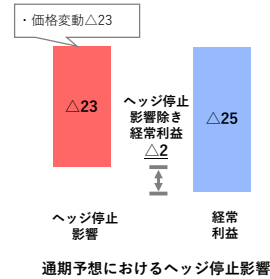
続いて11ページをご覧ください。

セグメント概況（銅加工事業）

- 3Q累計実績は、為替の円安による増益、ヘッジコストの減少があったものの、ヘッジ停止による為替・価格変動差での減益などにより経常利益は△24億円（対前年同期比△19億円）となった。
- 通期予想は前回予想に対して、自動車市場、半導体市場の需要回復が当初想定に比べ緩やかとなり、経常利益は△25億円（対前回予想比△0億円）を見込む。
- ヘッジ停止による影響（△23億円）を除いた通期の経常利益は△2億円。
- 収益改善に向けて、引き続き生産プロセスの合理化や生産性向上などのコストダウン施策を進めていく。

項目	24年3月期 3Q累計実績 (a)	25年3月期 3Q累計実績 (b)	増減 (b-a)
売上高	億円 3,103	3,279	+176
営業利益	億円 18	4	△14
経常利益	億円 △4	△24	△19

前回(11/8) 通期予想(c)	今回 通期予想(d)	増減 (d-c)
4,579	4,438	△141
13	14	+0
△24	△25	△0



経常利益増減要因内訳

	3Q累計実績 増減	通期予想 増減
為替差	+3	+1
価格差*1	+2	+9
数量差	△12	△27
その他*2	△12	+17
経常利益増減	△19	△0

*1価格差の主な内訳

3Q累計 実績増減	エネルギー価格差+1
通期予想 増減	価格値上げ

*2その他の主な内訳

3Q累計 実績増減	為替価格変動差△32 ヘッジコスト+14他
通期予想 増減	為替価格変動差+20 他

こちらは、銅加工事業となります。

第3四半期累計実績は、増収・減益となりました。

営業利益・経常利益は、伸銅品の市場での在庫調整局面継続による販売減、ヘッジの停止による為替価格変動が主因となり減益です。

通期の業績予想は前回予想に対して減収となりますが、利益面では前回予想同等を見込んでいます。

営業利益・経常利益は、販売の減少により減益となりますが、為替の円安、価格値上げ、為替価格変動差の改善による増益でカバーし前回予想並みを見込んでいます。

通期でのヘッジ停止による影響はマイナス23億円を想定しています。

銅加工事業は、2期連続で経常利益が赤字となる見込みです。収益改善に向けて、引き続き、生産プロセスの合理化や生産性向上などコストダウン施策を進めています。

続いて12ページをご覧ください。

セグメント概況（電子材料事業）

- 3Q累計実績は、半導体関連部品の一部については回復の兆しが見られたものの、シール製品の在庫調整局面となり、事業全体での売上高は前年同期並み。棚卸資産の在庫評価損益などにより経常利益は36億円（対前年同期比+20億円）となった。
- 通期予想は前回予想に対して、半導体向けの需要回復などにより増益を見込む。経常利益は44億円（対前回予想比+7億円）を見込む。

項目	24年3月期 3Q累計実績(a)	25年3月期 3Q累計実績(b)	増減 (b-a)	前回(11/8) 通期予想(c)	今回 通期予想(d)	増減 (d-c)
売上高 億円	590	584	△6	747	768	+20
営業利益 億円	7	24	+16	24	31	+6
経常利益 億円	16	36	+20	37	44	+7

経常利益増減要因内訳

	3Q累計実績 増減	通期予想 増減
為替差	+0	-
価格差	△1	+1
数量差	△2	+6
受取配当金	+0	-
持分法損益	+0	-
その他*1	+23	-
経常利益増減	+20	+7

*1その他の主な内訳

3Q累計 実績増減	棚卸資産評価損益+15他
通期予想 増減	-

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

12

こちらは、電子材料事業です。

第3四半期累計実績は、売上については、前年比同等となりました。

営業利益・経常利益については、昨年度に計上していた棚卸資産の在庫評価損益の戻入により増益となっています。

通期の業績予想は、前回予想に対して増収・増益です。

営業利益・経常利益は半導体関連部品の一部の需要回復、価格値上げなどにより増益となりました。

続いて13ページをご覧ください。

セグメント概況（加工事業）

- 3Q実績は、為替の円安や値上げ効果などがあったが、自動車向けの需要が低調であったことに加えて、為替差損益の減少(前年度末と当期末の為替変動による評価損益)などにより経常利益は67億円（対前年同期比△24億円）となった。
- 通期予想は前回予想に対して、自動車向けの需要回復がより緩やかになることなどにより経常利益は87億円（対前回予想比△21億円）を見込む。

項目	24年3月期 3Q累計実績(a)	25年3月期 3Q累計実績(b)	増減 (b-a)	前回(11/8) 通期予想(c)	今回 通期予想(d)	増減 (d-c)
売上高 億円	1,047	1,109	+62	1,528	1,488	△40
営業利益 億円	82	68	△13	111	91	△20
経常利益 億円	91	67	△24	108	87	△21

経常利益増減要因内訳

	3Q累計実績 増減	通期予想 増減
為替差	+25	-
価格差*1	+7	△7
数量差	△12	△7
受取配当金	-	-
その他*2	△43	△7
経常利益増減	△24	△21

*1価格差の主な内訳

3Q累計 実績増減	値上げ効果+7
通期予想 増減	数量減による値上げ効果減他

*2その他の主な内訳

3Q累計 実績増減	棚卸資産評価損益△7、在庫調整△12 為替差損益△9他
通期予想 増減	在庫調整、DX費用

こちらは、加工事業です。

第3四半期累計実績は、増収・減益となりました。

営業利益・経常利益は、自動車向け需要の低迷、在庫調整、第2四半期末日で為替レートが円高に転じたことによる金銭債権債務に係る為替差損益が悪化したため、減益となりました。

通期の業績予想は、減収・減益の見込みです。

営業利益・経常利益は、当初期待していた販売の回復が見込めず減販となり、それに伴う値上げ効果の目減り、在庫調整などにより減益となる見込みです。

続いて14ページをご覧ください。

セグメント別増減内訳（通期予想前年実績対比）

項目	24年3月期 実績(a)			今回予想(b)			増減 (b-a)			営業利益・経常利益 変動要因
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	(増)：増益 (減)：減益
金属	10,380	98	310	14,639	273	454	+4,259	+175	+144	(増)為替差 (増)電気銅・金・銀増販 (増)実収効率の改善 (減)鉱山配当減
高機能製品 *1	4,887	40	18	5,194	39	13	+307	△1	△5	—
銅加工	4,102	26	△5	4,438	14	△25	+336	△12	△20	(増)価格改定など (減)需要の回復遅れ
電子材料	799	17	28	768	31	44	△31	+14	+16	(増)半導体需要一部回復 棚卸資産評価損減
加工	1,400	108	122	1,488	91	87	+88	△17	△35	(増)価格改定 (減)自動車需要回復遅れ 在庫調整など
再生可能 エネルギー	46	8	8	85	22	25	+39	+14	+17	(増)安比地熱発電所開業
その他	1,606	78	221	1,583	47	155	△23	△31	△66	—
調整額	△2,913	△101	△140	△3,191	△75	△146	△278	+26	△6	—
合計	15,406	232	541	19,800	400	590	+4,394	+168	+49	

*1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しています。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

14

今回の業績予想の修正で、24年度の営業利益、経常利益予想の引き下げを行いました。対前年実績比では営業利益、経常利益ともに増益となっています。

変動が大きい事業は金属事業、銅加工事業、加工事業です。

金属事業は、ロスペランブレス鉱山からの受取配当金の減少がありましたが、為替の円安、電気銅、金・銀の増販、実収効率の改善により増益となりました。

銅加工は価格改定など進めましたが、自動車需要の回復遅れによる減益となっています。

加工事業は、価格改定を進めていますが、自動車需要の回復遅れによる数量差減、在庫調整により減益となっています。

続いて15ページをご覧ください。

UBE三菱セメント社概況									
■UBE三菱セメント社連結損益計算書 (単位：億円)				■UBE三菱セメント社諸元					
項目	24年3月期 3Q実績	25年3月期 3Q実績	25年3月期 通期予想	項目	24年3月期 3Q実績	25年3月期 3Q実績	25年3月期 通期予想		
売上高				セメント (国内総需要)	万 t	2,671	2,515	3,300 (3,300)	
国内事業	3,093	2,872	3,795 (3,840)	セメント (国内)販売数量	万 t	635	596	790 (800)	
海外事業	1,385	1,440	1,825 (1,880)	セメント (米国)販売数量	万st	135	124	160 (170)	
計	4,478	4,312	5,620 (5,720)	生コン (米国)販売数量	万cy	539	490	625 (660)	
営業利益				一般炭価格 (参考指標)	\$/ t	148	138	141 (144)	
国内事業	116	150	175 (160)	ドル為替	円/\$	143	153	151 (149)	
海外事業	249	280	305 (300)						
計	365	431	480 (460)						
経常利益	384	450	480 (460)						
親会社株主に帰属する 純利益	193	248	260 (220)						
■当社持分法投資損益	0は2024年11月8日に発表した予想			※上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。					
持分法投資損益	97	115	117 (99)	(参考) 24年12月末 連結貸借対照表 (単位：億円)					
				総資産	8,338	有利子負債	1,634	自己資本	3,938
				自己資本比率	47.2	ネットD/Eレシオ	0.18		

・ 国内事業：（3Q実績）売上高は、環境エネルギー事業における石炭及び電力の販売減が響き対前年同期で減収。
営業利益は、主にセメント事業の値上と熟エネルギー価格低下、及び資源事業の値上の効果により対前年同期で増益。
（通期予想）4Qはセメント事業を中心にコスト上昇等の影響を受け減益となるも、通期では対前年(*)で減収増益を見込む。
*24年3月期実績： 売上高 4,071億円 営業利益 150億円

・ 海外事業：（3Q実績）米国事業は金利高の影響等により需要が低調に推移したが、前年度実施の値上効果や為替影響が寄与し対前年同期で増収増益。
豪州石炭事業は販売価格の下落等により対前年同期で減収減益、海外事業全体では対前年同期で増収増益。
（通期予想）4Qの米国事業は低調な需要下でコスト上昇等の影響を受け減益となるも、海外事業全体の通期営業利益は前年(*)並みを見込む。
*24年3月期実績： 売上高 1,781億円 営業利益 306億円

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved. 15

こちらは、UBE三菱セメント社となります。

国内事業となります。

3Q累計実績は、セメント、電力の販売数量減や、石炭市況の下落がありました。セメントの値上効果や熟エネルギー価格の低下、資源事業の値上げ効果により、前年同期比で増益となりました。

第4四半期がセメント事業を中心に需要減、コスト上昇等の影響を受け減益となる見込みですが、通期の業績予想は、対前回予想に対して増益、対前年比でも増益を見込んでいます。

海外事業となります。

3Q累計実績は、米国のセメント、生コン販売数量は金利高の影響により前期比で減少していますが、値上効果や為替影響により、対前年同期比で増益となりました。

豪州石炭事業は販売価格下落の影響を受け前期比で減益となりました。

第4四半期が米国事業で、低調な需要に見通しに加えコスト上昇等を見込んでいます。通期の業績予想は、対前回予想に対して増益、対前年比では昨年度実績並みの営業利益を見込んでいます。

私からの説明は以上でございます。

参考情報

セグメント別増減内訳（3Q累計実績前年同期対比）

（単位：億円）

項目	24年3月期 3Q累計実績(a)			25年3月期 3Q累計実績(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
金属	7,163	67	283	10,950	223	418	+3,786	+155	+135
高機能製品 *1	3,683	24	9	3,855	24	8	+172	+0	△1
銅加工	3,103	18	△4	3,279	4	△24	+176	△14	△19
電子材料	590	7	16	584	24	36	△6	+16	+20
加工	1,047	82	91	1,109	68	67	+62	△13	△24
再生可能 エネルギー	35	5	5	63	19	22	+28	+14	+17
その他	1,142	32	133	1,133	39	148	△9	+6	+15
調整額	△2,256	△58	△86	△2,275	△53	△96	△19	+5	△9
合計	10,815	154	436	14,836	322	568	+4,021	+168	+131

*1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しています。

セグメント別増減内訳（通期予想前回予想対比）

（単位：億円）

項目	前回予想(a)			今回予想(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
金属	14,294	287	471	14,639	273	454	+345	△13	△16
高機能製品 *1	5,314	29	5	5,194	39	13	△119	+9	+8
銅加工	4,579	13	△24	4,438	14	△25	△141	+0	△0
電子材料	747	24	37	768	31	44	+20	+6	+7
加工	1,528	111	108	1,488	91	87	△40	△20	△21
再生可能 エネルギー	86	24	26	85	22	25	△1	△1	△1
その他	1,656	41	154	1,583	47	155	△73	+6	+0
調整額	△3,381	△84	△136	△3,191	△75	△146	+189	+8	△9
合計	19,500	410	630	19,800	400	590	+300	△10	△40

*1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しています。

前年実績対比（セグメント別要因内訳）

（単位：億円）

項目		24年3月期 3Q累計実績 (a)	25年3月期 3Q累計実績 (b)	増減 (b - a)	為替差	価格差	数量差	受取 配当金	持分法 損益	その他
金属	売上高	7,163	10,950	+3,786	+571	+1,596	+1,619	-	-	-
	営業利益	67	223	+155	+30	△2	△2	-	-	+129
	経常利益	283	418	+135	+30	△2	△2	△53	+31	+131
高機能製品 * 1	売上高	3,683	3,855	+172	+92	+305	△225	-	-	-
	営業利益	24	24	+0	+4	+1	△14	-	-	+8
	経常利益	9	8	△1	+4	+1	△14	△0	+0	+7
銅加工	売上高	3,103	3,279	+176	+85	+307	△216	-	-	-
	営業利益	18	4	△14	+3	+2	△12	-	-	△7
	経常利益	△4	△24	△19	+3	+2	△12	△0	-	△12
電子材料	売上高	590	584	△6	+6	△2	△10	-	-	-
	営業利益	7	24	+16	+0	△1	△2	-	-	+19
	経常利益	16	36	+20	+0	△1	△2	+0	+0	+23
加工	売上高	1,047	1,109	+62	+51	+27	△16	-	-	-
	営業利益	82	68	△13	+25	+7	△12	-	-	△33
	経常利益	91	67	△24	+25	+7	△12	-	-	△43
再生可能 エネルギー	売上高	35	63	+28	-	△0	△5	-	-	+34
	営業利益	5	19	+14	-	△0	△3	-	-	+17
	経常利益	5	22	+17	-	△0	△3	-	+1	+19
その他	売上高	1,142	1,133	△9	+8	-	△17	-	-	-
	営業利益	32	39	+6	+0	-	△0	-	-	+6
	経常利益	133	148	+15	+0	-	△0	△4	+18	+1
調整額	売上高	△2,256	△2,275	△19	△105	△204	+290	-	-	-
	営業利益	△58	△53	+5	-	-	+16	-	-	△11
	経常利益	△86	△96	△9	-	-	+16	△0	△0	△25
合計	売上高	10,815	14,836	+4,021	+618	+1,725	+1,643	-	-	+34
	営業利益	154	322	+168	+60	+6	△16	-	-	+118
	経常利益	436	568	+131	+60	+6	△16	△57	+52	+86

* 1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しています。

セグメント別四半期推移

(単位：億円)

項目	24年3月期								25年3月期							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期		
金属	売上高	2,409	2,358	4,768	2,395	3,216	5,611	10,380	3,900	3,424	7,324	3,625	3,689	7,314	14,639	
	営業利益	16	54	71	△3	30	27	98	88	136	224	△1	50	49	273	
	経常利益	26	58	84	198	27	225	310	121	58	180	237	36	273	454	
高機能製品 *1	売上高	1,205	1,224	2,429	1,253	1,204	2,457	4,887	1,323	1,288	2,611	1,243	1,339	2,582	5,193	
	営業利益	4	3	8	16	16	32	40	23	△33	△10	35	14	49	40	
	経常利益	2	△0	1	8	8	16	18	20	△43	△23	31	5	36	13	
銅加工	売上高	1,016	1,027	2,043	1,059	999	2,058	4,102	1,130	1,098	2,229	1,049	1,159	2,208	4,438	
	営業利益	5	5	10	8	7	15	26	17	△32	△14	19	9	28	14	
	経常利益	△0	△1	△2	△2	△1	△3	△5	8	△42	△34	10	△1	9	△25	
電子材料	売上高	189	199	388	201	208	410	799	198	189	388	196	184	380	768	
	営業利益	1	△1	0	7	9	17	17	7	1	9	15	6	21	31	
	経常利益	4	2	6	9	11	21	28	14	1	16	20	8	28	44	
加工	売上高	350	347	698	349	352	702	1,400	381	364	746	363	378	741	1,488	
	営業利益	32	19	52	29	25	55	108	29	38	68	0	22	22	91	
	経常利益	41	22	63	27	31	59	122	34	28	63	3	20	23	87	
再生可能 エネルギー	売上高	12	10	22	12	11	23	46	23	21	45	18	21	39	84	
	営業利益	3	△0	2	3	2	5	8	9	7	16	3	2	5	22	
	経常利益	3	△0	3	2	3	5	8	12	5	18	4	2	6	25	
その他	売上高	334	390	725	417	463	880	1,606	350	376	727	406	450	856	1,583	
	営業利益	△1	16	15	16	45	62	78	6	15	21	17	8	25	46	
	経常利益	20	62	82	51	87	138	221	40	49	89	58	6	64	154	
調整額	売上高	△686	△795	△1,482	△774	△657	△1,431	△2,913	△842	△717	△1,559	△716	△916	△1,632	△3,191	
	営業利益	△18	△12	△31	△27	△42	△70	△101	△28	△16	△45	△8	△22	△30	△75	
	経常利益	△24	△27	△51	△35	△53	△88	△140	△43	△35	△79	△16	△50	△66	△145	
合計	売上高	3,626	3,535	7,161	3,653	4,590	8,244	15,406	5,137	4,758	9,895	4,941	4,963	9,904	19,800	
	営業利益	37	81	119	34	78	113	232	128	147	275	47	77	124	400	
	経常利益	69	114	184	252	104	356	541	186	62	249	319	21	340	590	

*1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを合せて記載しています。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

諸元

主要製品の生産・販売動向

項目	24年3月期							25年3月期							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
電気銅*1	生産量 千t	96	109	204	95	113	208	413	112	102	214	98	92	190	405
	販売量 千t	86	99	186	92	111	203	388	102	93	195	88	92	180	376
金	生産量 t	9	6	14	4	8	12	26	9	9	19	10	10	20	39
	販売量 t	8	6	14	4	8	12	26	9	9	19	10	11	20	39
銀	生産量 t	66	61	126	44	65	109	235	81	75	156	69	90	159	315
	販売量 t	65	61	126	39	71	110	236	82	74	156	69	90	159	315
伸銅品	販売量 千t	29	31	61	32	31	63	124	29	29	58	31	30	61	118

*1：電気銅生産量は受託分を含んでいます。

鉱山配当額の推移

項目	24年3月期							25年3月期							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
Los Pelambres	配当額 億円	-	-	-	208	1	210	210	-	-	-	137	△0	136	136
Escondida	配当額 億円	6	3	9	9	2	12	21	8	-	8	27	7	34	43
鉱山配当額計	配当額 億円	6	3	9	217	4	222	231	8	-	8	164	6	171	180

金属価格・為替の推移

項目	24年3月期							25年3月期							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
ドル為替レート	円/\$	137	145	141	148	149	148	145	156	149	153	152	155	154	153
ユーロ為替レート	円/€	149	157	153	159	161	160	157	168	164	166	163	160	161	164
銅価格(LME)	¢/lb	385	379	382	371	383	377	379	442	417	430	416	400	408	419
金価格	\$/oz	1,978	1,929	1,954	1,976	2,072	2,024	1,989	2,338	2,476	2,407	2,662	2,700	2,681	2,544
パラジウム価格	\$/oz	1,449	1,251	1,350	1,085	978	1,031	1,191	972	970	971	1,011	1,000	1,005	988

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

持分法投資損益内訳

(単位：億円)

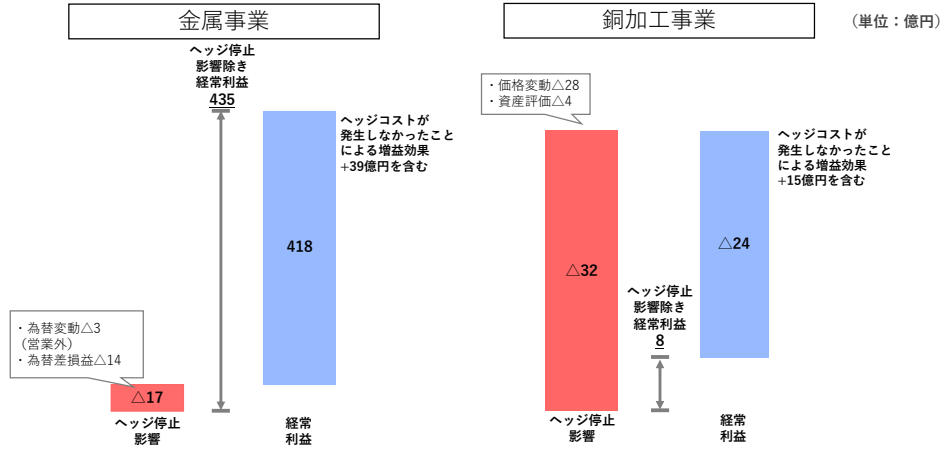
会社名	当社 持分	24年3月期							25年3月期						
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期
Copper Mountain Mine(BC)Ltd.	25%	△4	△17	△22	5	△5	0	△22	0	△6	△6	0			
Mantoverde S.A.	30%	△12	2	△10	△2	△10	△13	△23	△2	△4	△6	6			
PT.Smelting * 1	34%	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4	2			
関西リサイクルシステムズ	41.4%	1	1	2	1	1	2	5	1	1	3	1			
フジクラダイヤケーブル * 2	22%	2	1	4	2	2	5	9	3	0	4	3			
湯沢地熱	30%	0	0	0	2	1	4	4	3	△0	3	2			
UBE三菱セメント	50%	20	47	67	29	41	70	138	36	36	72	43			
その他		1	1	2	1	△2	△0	2	2	△0	1	1			
合計		7	37	45	41	28	70	115	45	31	76	63			

* 1:第三者割当増資の完了に伴って持分比率が低下したため、25年3月期第2四半期より持分法適用関連会社として損益取り込み

* 2:24年3月期当社持分22.5%、25年3月期当社持分22%

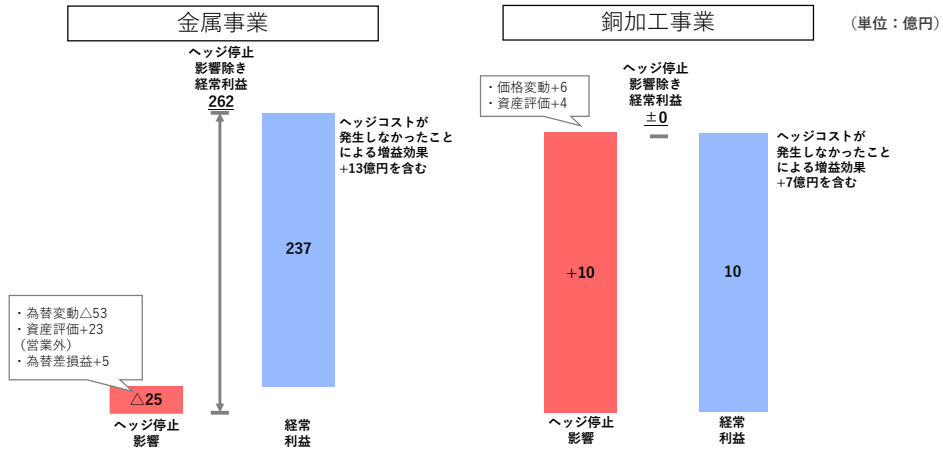
25年3月期3Q累計実績（ヘッジ停止関連概要）

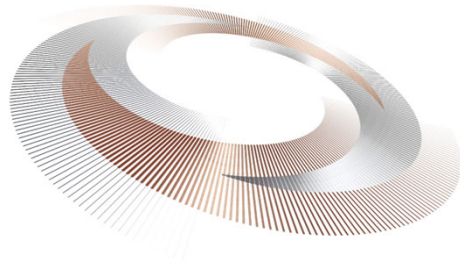
- 金属事業：経常利益418億円に対して、ヘッジを停止したことによる収益影響は△17億円（営業利益影響△3億円、経常利益影響△14億円）であった。ヘッジ停止影響を除いた経常利益は435億円となった。ヘッジコストが発生しなかったことで3Q累計で+39億円の増益効果もあった。
- 銅加工事業：経常利益△24億円に対して、ヘッジを停止したことによる収益影響は△32億円（営業利益影響）であった。ヘッジ停止影響を除いた経常利益は8億円と黒字を確保した。ヘッジコストが発生しなかったことで3Q累計で+15億円の増益効果もあった。
- 3Q累計全体での金属事業と銅加工事業を合わせたヘッジ停止による収益影響は、為替・価格変動などで△49億円、ヘッジコストが発生しなかったことで+54億円の増益効果となり、合計では+5億円となった。



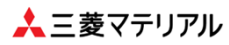
25年3月期3Q実績（ヘッジ停止関連概要）

- 金属事業：経常利益237億円に対して、ヘッジを停止したことによる収益影響は△25億円（営業利益影響△30億円、経常利益影響+5億円）であった。ヘッジ停止影響を除いた経常利益は262億円となった。ヘッジコストが発生しなかったことで3Qで+13億円の増益効果もあった。
- 銅加工事業：経常利益10億円に対して、ヘッジを停止したことによる収益影響は+10億円（営業利益影響として）であった。ヘッジ停止影響を除いた経常利益は±0億円となった。ヘッジコストが発生しなかったことで3Qで+7億円の増益効果もあった。
- 3Qでの金属事業と銅加工事業を合わせたヘッジ停止による収益影響は、為替・価格変動などで△15億円、ヘッジコストが発生しなかったことで+20億円の増益効果となり、合計では、+5億円となった。





人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

お問合せ先

**三菱マテリアル株式会社
コーポレートコミュニケーション室 IRグループ**

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

ml-mmcir@mmc.co.jp

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>

<お知らせ>

最新の適時開示など、当社IRに関する情報のメール配信サービスをご希望の方は、
以下のURLからご登録ください

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/ir/irmail.html>

<免責事項>

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。
実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。
本資料に掲載されている内容・写真・図表などの無断転載を禁止します。